



2018 年 (平成 30 年)  
6 月号 (No. 877)

公益社団法人  
**日本山岳会**  
The Japanese Alpine Club

定価 1 部 150 円

会員の会報購読料は年会費に含まれています

URL ● <http://www.jac.or.jp>  
e-mail ● [jac-room@jac.or.jp](mailto:jac-room@jac.or.jp)

## ドローンとGISを用いた蔵王樹氷原の害虫被害の範囲解析について

蔵王山のシンボル・樹氷原がピンチ！ トウヒツヅリヒメハマキという害虫の幼虫が、冬に樹氷を形作るオオシラビソの葉裏を食害し、枯死に至らしめるという被害が広がっている。発生は2013年からだが、このたびのドローンとGISを用いた調査によると、被害範囲は拡大傾向にあることが示唆された。

### はじめに

山形県と宮城県の県境に広がる蔵王山は深田久弥の『日本百名山』にも記された名峰で、夏場の縦走路や冬場のスキーコースが多数あり、多くの登山者やスキーヤーでにぎわう観光地でもある。特に山形県側の蔵王温泉スキー場で見られる樹氷は、世界的にも珍しい自然現象である。

この樹氷は、過冷却した霧粒ま

山形支部長 野堀嘉裕

たは雲粒がオオシラビソ(別名アオモリトドマツ)に吹き付けて凍ったもので、羽毛状の白い氷で繊維状の構造を持ち、マイナス5度C以下の気温のとき、風の当たる方向に大きく成長する。毎年1月から2月の厳冬期にスキーコースから見られるが、近年、この樹氷原に害虫の被害が発生して問題となっている(写真1)。

国立研究開発法人森林研究・整

### 目次

|                                 |    |
|---------------------------------|----|
| ドローンとGISを用いた蔵王樹氷原の害虫被害の範囲解析について | 1  |
| 日本山岳会へのご寄付のメットについて              | 4  |
| 東海支部登山学校、第2期開校へ                 | 6  |
| ドゥド・コシ溪谷水量調査へのお誘い               | 7  |
| フィンランドの山々を旅して                   | 8  |
| 第1回家族登山教室を高尾山で開催                | 10 |
| 活動報告                            | 11 |
| 山行委員会/科学委員会/図書委員会               |    |
| 支部だより                           | 12 |
| 東海支部                            |    |
| 新入会員                            | 13 |
| 図書紹介                            | 14 |
| 図書受入報告                          | 15 |
| 会務報告                            | 16 |
| ルーム日誌                           | 17 |
| 会員異動                            | 17 |
| INFORMATION                     | 18 |
| 編集後記                            | 19 |

▶ 日本山岳会事務(含図書室)取扱時間  
月・火・木……………10~20時  
水・金……………13~20時  
第2、第4土曜日……………閉室  
第1、第3、第5土曜日……………10~18時

備機構森林総合研究所によると、害虫の被害はトウヒツヅリヒメハマキによるもので、2013年から被害が確認されている。その後、ヒメバチやタマゴコバチなど寄生バチの大発生により、2015年には被害は終息に向かいつつあるとの報道がなされている。一方、毎年蔵王温泉スキー場でスキーを楽しんでいる日本山岳会山形支部会員やアルパインスキークラブのメンバーは、顕著に見えるようになってきた被害の深刻さ(写真2)を次第に認識するようになってきた。山形大学で森林情報学研究室を開いていた筆者もその一人である。ここでは、害虫の被害範囲の推移についてドローンとGISを用いて解析したので、その結果を報告する。

### 調査方法

調査はグーグル・アースの2013年8月16日、2015年11月14日、2017年5月29日の画像および2018年3月20日のドローン(DJI製Mavic Pro)による撮影画像(写真3)を対象とし、現地踏査結果をQGIS(2.18)で解析した。その他、使用したデータは環境省の環境情報GIS植生図、国土地理院タイル・データ、およびガーミンGPS(OREGON650)のトラック・データおよびウェイポイント・データである。ドローンによる空撮は被



写真1  
害虫被害による枯死木



写真2 地蔵岳南斜面の被害地 (2018年3月20日撮影)



写真3 樹氷原のドローンによる空撮写真 (2018年3月20日撮影)

害地と無被害地の境界線上を移動した後、フライトレコード・データを緯度経度データに変換したのちに被害範囲を特定した。

## 調査結果

被害の発生は2013年であるが、2013年8月16日のグーグル・アース画像を見ると、樹氷原

のオオシラビソ林で枯損木は全く把握できなかった。地蔵岳北側および南西側の低木林（ハイマツ生育域）で認識でき、環境省によるGIS植生図の低木林範囲と一致していることが分かった。

2015年11月4日のグーグル・アースの画像では、ロープウェイ山頂駅北側および南側で樹冠が褐

変して、小さくなっているオオシラビソが視認できた。特に樹氷原スキーコースとロープウェイ下伐採跡地の間では多くの褐変した樹冠が確認できた。その東側はハイマツによる低木林となっており、褐変域はその境界まで至っていた。

2017年5月29日の画像では、褐変範囲が南側に県境の尾根付近まで拡大していることが分かった（図1）。図ではロープウェイ山頂駅の西側の多角形が拡大している様子を示し

ている。  
2018年3月20日の筆者の観測では、褐変の範囲は西側に拡大していることが分かった。蔵王温泉スキー場・樹氷原コース84番標識（標高1565m）から上部で激害となっていることを現地で確認した。これより標高の低い部分では、枯死木は見られなかった。衛

星写真で褐変した樹冠が把握できた2015年から18年の3年間で、その範囲は西側へ160m、南側へ320m拡大していた。また、面積は2015年の5万584㎡から18年には14万199㎡に拡大していた。スキー場の樹氷原コースから枯死木を直接確認できる場所もあるが、樹氷が発生している場合には被害の確認が難しいことも分かった。

## 考察

害虫による被害は、トウヒツツリヒメハマキの幼虫がオオシラビソの葉の裏側を食害し、次第に枯死に至らしめるものだが、食害されて直ちに枯死して幹が倒れるわけではなく、緑の葉が褐変するのに1～2年掛かり、また、褐変した葉が1～2年は枝に付いている場合もある。葉が失われても、幹や枝は長年朽ち果てることはない。単木の被害の範囲も、上端部だけが壊死する場合や、樹冠の下部の枝葉は被害を受けても生残する場合もある。したがって、航空写真や衛星写真のように上空から撮影した画像だけでは、褐変している状況は把握できるが、生きている

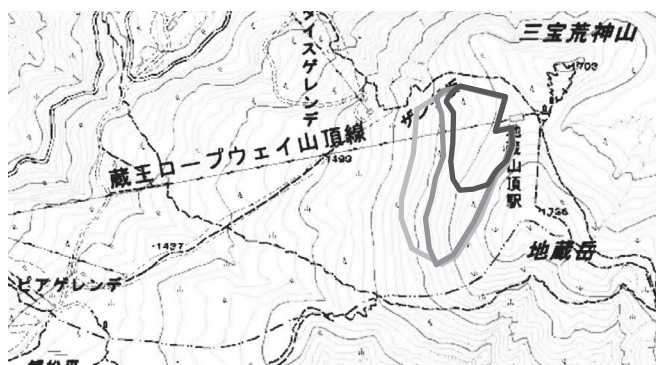


図1 GISによる被害範囲の推移解析

のか枯れているのかの正確な判断は困難と考えられる。ただし、今回の調査のように被害範囲が広がっている状況は、ここ数年での被害範囲の拡大を強く示唆するものと言える。

山形県では1994年以降、カシノナガキクイムシによるナラ類の集団枯損被害(ナラ枯れ)が発生している。次年の被害範囲の拡大は100m付近にピークがあり、500mで9割の被害拡大であることが知られている。オオシラビ

ソの見かけ上の被害拡大面積を単純計算すると、毎年約3万㎡と推定され、これを同心円に例えて拡大範囲を求めると、半径約50mとなる。被害の拡大スピードは、ナラ枯れの場合よりはるかに小さいことが分かった。害虫を主とした加害生物による被害のメカニズムがどのようなものであるかという問題は、森林総合研究所などの研究機関が解明していくことになるが、現時点で予想できる今後の樹木の推移のシナリオについて考察しておく必要がある。

北八ヶ岳の縞枯山では、シラビソやコマツガが縞状に立ち枯れる現象が知られているが、これは200年から300年掛けて世代交代を繰り返しながら移動することが分かっている。つまり、次世代の若木が育っていることを意味している。

蔵王山の場合はどうだろうか。蔵王山のオオシラビソ林は原生林なので、原則的には天然更新が繰り返されていると考えられるが、今回のように一時期に大面積が枯れて、次世代に交代するという事例はこれまでに観測されたことがない。したがって、縞枯山のように

に世代交代を踏まえた枯死現象とは異なっていると判断される。

一方、樹氷原を構成しているオオシラビソの枯死は、直ちに樹木の消滅を意味するものではない。枯れた幹が朽ち果てるのに要する年月が過ぎたのちに樹氷が消滅することになる。その年月は枯れ木が残存する時間を意味するが、モンゴルやシベリアのタイガで、山火事跡地の幹の倒伏に掛かる年数が10年以上とされていることを考えると、少なくとも10年以上は幹が残存し、樹氷が出現すると予想される。その後、次第に幹が倒伏していくことで樹氷原が失われていくシナリオが考えられる。

地球科学が専攻の山形大学の柳沢博士は、地球温暖化により樹氷が発生する場所が高標高域へ移動していることを示しており、今世紀末には蔵王山で樹氷が見られなくなると予想している。現時点で樹氷が発生する場所は標高が1300m以上であり、それより高標高域で樹氷が大きく発達する。温暖化による樹氷の消滅は低標高域から進むが、今回のような害虫被害は高標高側から低標高側に進んでおり、ダブルパンチで樹氷の消

滅に拍車を掛けることになる。

## おわりに

2017年1月29日にロープウェイ地蔵山頂駅付近で撮影した写真(写真4)を見ると、発達した樹氷を見ることが出来る。この周辺は葉が落ちたオオシラビソが立ち枯れている所であるが、樹氷は発生していることが分かる。写真のように樹氷が着いていれば、スキーヤーや観光客はオオシラビソが枯れていることに気が付かないのである。

10年後に樹氷原が次第に失われた後には、広大な雪原が広がることになり、スキーコースが拡大す



写真4 枯死木に着いた樹氷(2017年1月29日撮影)

るとの見方もあるが、現時点で把握されている被害域が拡大せず、スキーの樹氷原コースが維持されることを切に祈るばかりである。

## 参考文献

本橋章・小曾戸貴典(2013年)「縞枯山の写真にみる縞枯現象の80年間の軌跡」『環境科学会誌』26(1):1-10ページ

野堀嘉裕・高橋教夫・佐藤明・斉藤正一(2007年)「GISを用いたナラ類集団枯損被害の予測」『森林防疫』56(2):9-14ページ

Nobori Y., Taki S., Lopez C.M.I., Takeda K., Ishida S. and Mizota C. (2013) Types of forest fire and biomass decreasing patterns in northern Mongolian forests. Multidisciplinary Research on Mongolian Ecosystems. Conference Proceedings from Second International Symposium by Japan and Mongolia: 15-20ページ

岡本英朗(2016年)「蔵王で発生したアオモリトドマツ虫害の防除について」『ライトトラップによる誘引捕獲効果の検証』

『平成27年度森林・林業技術交流発表会発表要旨集』(林野庁東北森林管理局)

Oshima Y., Kimura M., Iwaki H. and Kuroiwa S. (1958) Ecological and Physiological Studies on the Vegetation of Mt. Shimagare. Bot. Mag.『植物学雑誌』71:289-301ページ

斉藤正一・福田達胤・松浦博文(2016年)「山形県蔵王山におけるアオモリトドマツの衰弱に対する調査と試み」『第127回日本森林学会大会講演要旨集』

齊藤雅哉・千葉翔(2017年)「蔵王オオシラビソ被害林の現状把握と再生に向けた取り組みについて」『平成28年度森林・林業技術交流発表要旨集』(林野庁東北森林管理局)

佐藤明・野堀嘉裕・高橋教夫・斉藤正一(2004年)「GISを用いた山形県朝日村におけるナラ類集団枯損の地理的特徴解析」『東北森林科学会誌』9(1):13-20ページ

柳澤文孝(2008年)「蔵王の樹氷の環境問題」『日本雪工学会誌』24(4):273-276ページ

## DONATION

# 日本山岳会へのご寄付のメリットについて

財務委員会委員長 吉川正幸

日本山岳会は、特定公益増進法人として税制上の優遇措置を受けています。ここで改めて日本山岳会への寄付について、特に寄付される方のメリットについてご説明します。

細かい説明を省略して要約しますと、日本山岳会への個人のご寄付は、確定申告を行なうことにより、その金額の約40%の所得税(住民税)の減免を受けることができます。

日本山岳会が実施または後援する行事等への寄付についても、その行事等への指定寄付(使途を指定した寄付)とすることによって、寄付された方は、同様の所得税の減免を受けることができます。日本山岳会は、指定寄付によって指定された使途に支出します。

日本山岳会の会費は寄付には該当しないのですが、永年会員、終身会員の皆様からのご寄付や、準会員の会費や入会金は、寄付として所得税の軽減を受けることができます。

きます。

また、遺贈または相続対象となる財産を日本山岳会へ寄付することにより、相続財産から除外できるので、相続税の減免につながります。

最近、相続税の課税限度額が大きく引き下げられた結果として、万一の場合の相続税の負担が大きくなっていますので、日本山岳会へのご寄付によって、相続税が軽減される可能性も増えています。さらに会社・法人からの寄付は、費用(損金算入)として計上できる場合が増えますので、法人税の軽減にもつながります。

## 寄付の受入口座について

日本山岳会への寄付は、下記の寄付受入口座にお願いします。

\* ゆうちょ銀行

記号番号 0018004

口座番号 764707

名称: 日本山岳会寄付口座

(「ホンサンガクカイキフコウザ」)

\*他銀行から振り込む場合

店名(店番) 〇一九(ゼロイチ

キユウ) 店

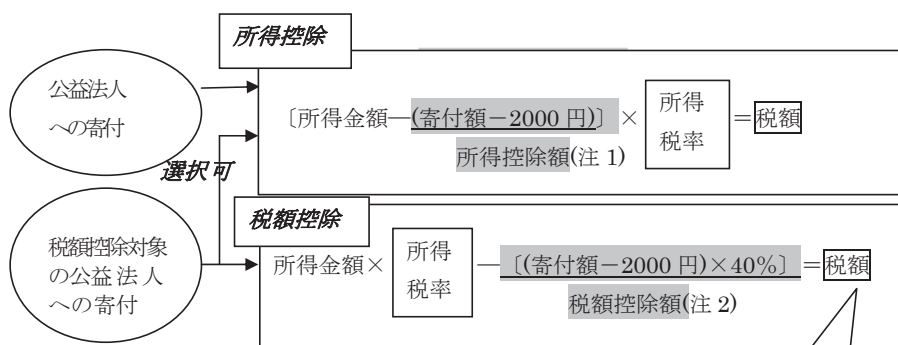
預金種目…当座

口座番号 0764707

名称…日本山岳会寄付口座

(二ホンサンガクカイキフコウザ)

**寄付をした個人に対する所得税の  
税制優遇**



税額控除は、所得控除と比べると多くの場合、節税効果が大きくなります！

たとえば日本山岳会に 10 万円を寄付した場合⇒  
39200 円が所得税から控除される

所得税について、以下の 2 種類の優遇があります。寄付をされる場合は、「所得控除」または「税額控除」いずれか有利な方式を選択し、寄付金控除を受けることができます。多くの場合「税額控除」を選択された方のほうが税額は少なくなります。そして、所得税・住民税の軽減を受けるためには、確定申告を行なうことが必要です。日本山岳会が発行する領収書を添付して税務署に申告してください。税額控除を選択される場合は、「税額控

除に係る証明書」も併せて添付してください。勤務先などで実施される年末調整では、寄付金控除・税額控除は受けることはできませんのでご注意ください。

### で寄付と相続税

相続税について、個人が相続財産の一部またはすべてを公益法人に贈与した場合、非課税となります。この場合、有効な遺言書に本会を受取人として指定していただく必要があります。配偶者や子どもなどの「法定相続人」には、遺言書の内容にかかわらず一定の遺産が相続できる「遺留分」が定められています。そのため遺産をどのように配分するか、慎重に検討していただく必要があります。金銭以外の財産を遺贈される場合は、本会にご相談下さい。

### 財産の譲渡と非課税について

みなし譲渡所得課税について。個人が財産を公益法人に贈与した場合、その贈与が教育または科学の振興、文化の向上、社会福祉への貢献、その他公益の増進に著しく寄与することなど一定の要件を満たすものとして国税庁長官の承

認を受けたときは、非課税となります。日本山岳会への寄付については、承認を受けられる可能性が大きいと言えます。

\*

以上のように、日本山岳会への寄付は、当会だけでなく指定寄付の対象となった行事や団体の支援にもなります。さらに、ご寄付された方にもメリットがあります。このメリットに関して、ご理解をいただくとともに、日本山岳会の活動を支援される会員外の方にも、お教えいただくようお願いいたします。

## REPORT

## 東海支部登山学校、第Ⅱ期開校へ

登山学校運営委員会委員長 榎 将美

昨年、東海支部では、支部の明日を占う事業として支部が主催し、支部の自主運営による「登山学校」を開校させた。目的は自立した登山者の育成、安全登山の啓蒙、支部運営のための人材確保、さらには支部のダイナミズムと財政面の強化である。

昨年の第Ⅰ期はグレードを3つに分け、初級7教室45名、中級6教室36名、上級1教室8名、計14教室89名で発足した。各教室は講師役の支部員の担任（リーダー）、副担任（サブリーダー）を含めて8〜9名の編成とした。これは、少人数にすることによって丁寧な指導が可能になると、相互の信頼関係を深めることにある。

それぞれのグレードに合わせた月1回の山行と、全体を対象にした座学を年数回実施することを基本とした。今年の6月を期末として、各教室ほぼ予定どおりのカリキュラムをこなすことができた。7月には、各教室とも卒業山行として、受講生の自主企画による山

行を予定している。

第Ⅰ期を終えて、多くの課題が浮き彫りになってきている。それらは、①学校を運営するルール（規定）が明確に定められていなかったことにより、教室間の運営にばらつきが見られた、②講師陣の負担が大きいことと員数が絶対的に不足している、③事故への対応策が十分に練られていなかった、④技術や教科の指導要領が不統一であった、⑤受講生間における体力などのレベル差が複数の教室で見受けられた、などが挙げられる。途中で改善を試みたが充分とは言えず、第Ⅱ期への宿題となった。

## 第Ⅱ期の開校

第Ⅱ期については現在、これらの課題について検討や修正を加え、カリキュラムの作成を進めている。第Ⅱ期の開校にあたって、まず初めに第Ⅰ期の受講生全員にアンケートを求めた。その結果、およそ8割の60名を超える受講生から継続受講の申し出を受けた。昨年の

経験より、講師の陣容から見て60名が限度と踏んでいたのに、新規募集は原則しないことにした。

中身は初級から中級へ、中級から上級へと進学を希望する者、もう一度同じグレードで受講したいとする者と、まちまちであった。クラス

の編成は、初級4教室26名、中級5教室31名、上級2教室13名の計70名でスタートすることになった。ここからうかがえるのは、中級が一番多く、ステップアップを希望する受講生が多くいたことである。それだけ受講生の皆さんが学校に期待を持っていたに添うべく努力を我々もその期待に添うべく努力を怠ってはならないのである。

第Ⅱ期の実施にあたって、運営ルール（規定）の明確化、指導要領のきめ細かい策定と統一、グレード別のカリキュラムの作成、共同装備の購入、事故対策の検討と保



ハヶ岳連峰・硫黄岳山頂に立った受講生たち

険の加入。さらには、2名の担任のほかに補助要員を付ける、平日クラスの要望を検討、などの事項を踏まえ、鋭意第Ⅱ期の開校準備を進めている。

第Ⅰ期の評価を下すならば、1年目としては、まずは及第点に達していたと言える。その最大の要因は、なんといっても30年にも及ぶ、マスコミの文化事業や公共団体から委託された登山教室で得



硫黄岳からアンザイレンして下山する

られたノウハウの蓄積があったこと。そして、何より東海支部のマンパワーによるところが大であることは、言を俟たない。

そのほか、当支部の登山学校の特徴として支部員、支部友以外の新規の受講生には、全員、自動的に支部友になつてもらった。東海支部の一員としての自覚を持つてもらふことと、支部員(会員)への昇格入会を促進することが目的である。

このことについては、我々のPR不足と、受講生の学校イコール東海支部という関係に対する認識不足からか、支部友会活動への参加意欲が希薄であつたことは否め

ない。今後は、支部友会も含めた支部の活動の啓発に力を注ぐ必要がある。

## 第Ⅱ期開校の概要

第Ⅱ期の概要である。学期は第Ⅰ期と同様、7月を始業とする1ヶ年とする。同じく月1回の定例山行と年数回の机上講習。グレードも第Ⅰ期と同じ初級・中級・上級とする。1教室当たり受講生6(7名、担任(リーダー)と副担任(サブリーダー)を置く。ほかに補助要員を共通で1教室当たり2名ほど付ける。受講生は支部員以外、全員支部友とする。受講料は支部員9000円、支部友1万円、新規受講者1万2000円。7月7日(土)、第Ⅰ期修了書授与式および第Ⅱ期始業式とオリエンテーションを実施する。また当日、元会長の尾上昇支部員による「近代登山の夜明け」と題した記念講演も予定している。

支部としては、受講生の期待に添うべく、さらには、今後の東海支部の発展を担う重点事業として、支部を挙げて取り組み、より充実した登山学校への進化を目指す所存である。

## RECRUIT

## ドウード・コシ溪谷水量調査へのお誘い

大森弘一郎

『山岳』第百十二年(2017年)のゴジュンバ氷河の調査報告を読んでいただけでしたか。我田引水ですが、良い内容ですのでぜひ読み直してください。

この108ページに、ドウード・コシ溪谷の水量の通年測定が重要で、これが山の変化と下流への影響を知るのに有効だと書きました。その調査に、今年の秋か来年の春に行きたいと思ひますので、同志を募ります。今年の地球環境基金に応募します(結果は不明ですが……)。ここから足を延ばしてゴークョ・ピークまで、またはチョラ・ラ(峠)を越えてクーンブ氷河の方に行くこともできます。

エヴェレストから流れるイムジャ・コラ溪谷と、チョー・オユーから流れるドウード・コシ溪谷の合流点の少し上に、ポルツェ・タンガという美しい村があります。この村に行く道がちょうど溪谷をまたいでいて、ここに橋が架かっているのです。その周辺の流れが少し穏やかなので、この橋に水圧

水位計か超音波水位計を設置して、データを日本まで飛ばし、日本で観測しようという考えです。

上流のゴジュンバ氷河のことは少し分かりました。毎年厚さが2m減っていて、50年で9km後退します。池は拡大して崩れ、流れる水量は多くなっています。これが雨期にはどうなるだろうか、最も危険な何かが発生するかもしれません。水量の変化を知ること、それを予測できるでしょう。これを通年測りたい、クムジュン村のヒラリー・スクールの学生たちにも教えたい、毎年1回行つて無線データ以外の情報を回収したい、と思います。

できれば5月の連休(4月27日(5月6日)のころに行きたいのですが、機器と資金と準備が間に合うかが問題です。そんなことを考えていますが、このプロジェクトへの参加者を数人募ります。

本件に関してご関心のある方は、[zero@qb3.so-net.ne.jp](mailto:zero@qb3.so-net.ne.jp) 大森宛ご連絡ください。

## REPORT

## フィンランドの山々を旅して

林 栄二

日本とほぼ同じ面積の国土の中に、人口が約25分の1の500万人というフィンランド共和国。森と無数にある湖に囲まれた、緑豊かな国土が広がっており、北極圏のラップランド地方には1000m内外の山々が連なっているが、中部・南部は全くの平地である。

首都は100万都市のヘルシンキである。ここも東京の10分の1くらいの規模である。自動車で郊外に出ると早速、白樺林に出会う。そして、赤松林がどこまでも続く。国土の南西部には麦畑が広がっているが、中部以北は寒冷地のため畑作はできない。

中部以北では市街地を除き、どこまでも森が続いている。そんな中に国立公園があり、自然遊歩道が続く。特に中南部のコリ国立公園から最北のラップランドまで、約1000kmに及ぶハイキング・コースがある。これは時の大統領コッケーネンによって造られ、U K K ハイキング・コースとして親しまれている。要所には山小屋が

点在し、バックパッキングでどこまでも歩き続けることができる。フィンランドというと、日本ではムーミンが有名である。このムーミンは数ある妖精の中の一つで、妖精たちは山深い奥からどんどんやって来るということらしい。つまりは、妖精の棲んでいる山奥は限りなく未知の世界なのである。

## フィンランドのアウトドア事情

国立公園や郊外の森の中などハイキング・コースは至る所にあり、要所には標識があり、減多に迷うことはない。ただ、枝道がたくさんあるので要注意だが、特にU K Kの標識に従って歩くとどこまでも道は続いている。湖あり草原あり松林あり、そして白樺林の中をくぐり抜けると、湖の畔に無人山小屋が建っている。

山小屋は深い森の中に1戸のみ建っているから、人里恋しい人には向かない。原則として連続3泊まで自由に宿泊ができる。小屋の設備は、どこに行っても標準的に

各種取りそろえられている。大抵は大部屋1室になっており、中央に大きな薪ストーブが設置され、ベッドなどが備えられている。

クッキング・コーナーがあり、テーブルと電気が来ていれば、電気コンロ、あるいはガスコンロが設置され、フライパンやクッキングの用意がきちんとされているので、食料さえ持つて行けば食事に事欠かない。

外には薪小屋とトイレ、そしてファイヤーの場所が設けられ、これらが一体となっているのが一般的だ。薪小屋には斧も用意されており、木材の豊富な国ということで、自由に使っている。ストーブに薪をくべながら暖を取り、窓の外の湖を眺めながらコーヒーなど飲んでみると、まさに至福の時だ。

小屋の横にはファイヤーの設備がある。設備というと多少大げさだが、リンクに10人くらい座れる木のベンチがあり、その中央でたき火ができる。そして、大抵はヤカンを掛けたりする金網があつて、ソーセージなどを焼きながら皆で談話できるようになっている。

バックパッキングで山小屋に着くと、生活が始まる。横には美し



どこも設備が整い、自由に宿泊できる山小屋

い湖が広がり、森と湖がすべてだ。今来た道と明日行く道以外は何もない。まさに大自然の森の中をどこまでも歩く、という感じである。

## オーランカ国立公園

フィンランド北東部に位置するオーランカ国立公園は南北約50km、東西約30kmで、東京都全体の約2分の1もある中に広がっている。北側が上流で白樺林の点在する湿地帯の原野であり、オーランカ川が流れ出し、次第に大きくなって湖に注ぎ、再び河となって中部を流れる。ここにサービス・センターが設けられ、地図や案内板、そしていろいろと情報を聞くことが

できる。このセンターから2kmほど下った所に大きな山小屋がある。山小屋までのハイキング・コースは美しい赤松林で、その中をオーランカ川が流れている。流れは速く、実に爽快だ。

河を下ると大きな湖となり、村が点在する。そして、再び河はロシアの大陸へと流れ去っていく。

### パララス国立公園

ラップランド中西部に位置するパララス国立公園は、高山植物の宝庫としてハイカーを飽きさせない。標高約300mの丘陵地帯が南北に約50km続く。サービス・センターが南側の約100mの麓にあり、ここを起点に東西に散策できる。

センター周辺の下部分は赤松で覆われているが、センターから上部は草原であり、100mから200m付近が高山植物の宝庫である。そして、その上は石ころだらけの岩山となる。日本でなら1000mの標高差が、ここではたったの100mである。

### ショータ国立公園

フィンランドの中央に位置する

ショータ国立公園。ここはノルディック・スキーで有名だが、夏は多くのハイキング・コースがあり、静かな山旅を楽しめる。規模はそれほど大きくないが、サービス・センターに立ち寄ると各種情報を受け取れる。

センター付近には集落も点在するが、一歩森の中へ入ると深い松林や草原に包まれ、澄んだ空気と点在する小沼を楽しみながらハイキングができる。山深いので人一人いないといった、この世にないほどの静かな森の中である。夜になって、深い森の中で湖面や極北の星空を眺めていると、至福の時間が過ぎていく。



わずか300mの間に垂直分布が展開(パララス国立公園)

### フィンランドの山々の魅力

#### \*高山植物の宝庫

極北では0mに高山植物が群生している。代表的なものに、日本で有名なブルーベリーがあり、どこへ行っても森の中に群生している。フィンランドでは私有地や公有地の別なく、どこであつても自然の恩恵を受けてよいことになったおり、ブルーベリーは専用の採集ボックスで自由に取ることができる。コケモモや克蘭ベリーなども、湿地帯に行くと楽しく採集できる。

\*高山を横にしたようなもの  
日本の山々を登りの山とすれば、フィンランドの山は水平に登ると



森を抜け、湖畔をたどりトレイルは続く(ショータ国立公園)

いった感じである。ただ、人口が少ないこともあつて山の中は赤松や白樺の樹林に覆われており、歩いても歩いても森や湖、大草原が続いている。

\*湖のある所には湿原と草原あり  
湖の広がっている所には、その一方の端に湿地帯が広がっていることが多い。湿地帯の一部が湖になった、という方が正しいのかも知れない。広々とした草原が広がり、地下からは泥炭が採れるのだという。

#### \*自分だけの山

山歩きは孤独なものである。どこまでも続く森林や湿地帯、湖岸などを、目的もなくどこまでも歩くところに魅力がある。そんな人には打ってつけの場所が、フィンランドの山々である。

\*高齢者にとって格好のコース  
登るほどの高い山がないフィンランド。山小屋を結んで1日2日と歩き続けても、大きな疲れもなく歩き続けられ、高齢者にとってまたとないハイキング・コースとなっているのが大きな魅力である。深い森の中をどこまでも散策できるフィンランドの山々を、あなたも体験してみませんか。

## REPORT

## 第1回家族登山教室を高尾山で開催

家族登山普及委員長 飯田邦幸

3月31日土曜日に、家族登山普及委員会主催の「高尾山とテント体験」と題した登山教室を開催した。一般から募った3家族、子ども4人、大人4人の計8人の参加だった。

高尾599ミュージアムの開館に合わせて午前8時に集合。受付後、定点カメラがとらえた珍しい映像を見ながら、「高尾の森づくりの会」の吉川さん、松川さんによる、これから登る高尾山の生き物の説明から教室はスタートした。



高尾の森づくりの会メンバーによる高尾の生き物解説

出発前に保護者と相談して、8歳の男子と母親は稲荷山コース、5歳の女子2人と8ヶ月女児とその親はケーブルカーで山頂を目指すことにして、それぞれに委員会のメンバーがサポートに付いて登山を開始した。

2パーティとも順調に登り、10時50分に山頂で合流した。昼食後、4号路より日影沢キャンプ場を指して全員で下山。日影沢キャンプ場には別の委員が車で入っていて、4〜5人用テントを張って待っていてくれた。テントを見た子どもに子どもたちははしゃいで、早速入っていった。子どもはテントが好きなようだ。

その間におやつ担当の委員がチョコレート・フォンデュを用意、イチゴとバナナにミルクチョコとホワイトチョコを付けて食べる。子どもたちにも、親たちにも大好評だった。

14時に撤収し、日影沢バス停で解散した。参加者の感想で「また参加したい」と言ってもらえたこと

が嬉しかった。

## 第1回「高尾山とテント体験」で受講者に伝えたかったことは、

- ①登山の基本的な装備と使い方、②歩き方、登り方、下り方、休み方、③テントについて、④登山の調理用具の使い方、⑤ゴミの持ち帰りの5点であった。

ちなみに6月3日に開催予定の第2回の「富士山洞窟」では、ヘッドライト、雨具、スパッツ、ヘルメットなどの「道具に慣れる」がテーマとなる。

家族登山普及委員会の活動の目的は、山登りが好きな人を増やし、その結果として日本山岳会への入会者を増やすことにある。親子での登山だけでなく、祖父母と孫など多くの家族での登山を考えて、今年度は隔月で登山教室を計画している。

今後の計画は以下のとおり。

■第3回「上高地で1泊体験」(7月28〜29日)



子どもたちはテントが大好き

■第4回「御岳山ロックガーデン」(10月21日)

■第5回「高尾山の二丁平で芋煮会」(12月2日)

■第6回「入笠山で雪山体験」(2月24日)。

対象は、集合場所に家族で来ることができる6歳〜小学6年までの男女とその家族。定員は各回10家族(第3回のみ5家族)。参加料は各回大人1000円、子ども500円(交通費、食費、その他は実費)。

■申込み・問合せ先：飯田邦幸(日本山岳会家族登山普及委員会) 連絡先：☎03-3268-1965 4(自宅) ケータイ090-1990-3508 メールアドレス：ida3268@gmail.com

# 活動報告

日本山岳会の  
各委員会、同好会の  
活動報告です。

## 山行委員会

### 八ヶ岳・峰ノ松目と硫黄岳

積雪期、登山者が多く訪れる八ヶ岳にあって、訪れる人も少なく深雪のラッセルが楽しめる峰ノ松目(2567m)、そして硫黄岳(2760m)を目指した。

3月4日(日)、9時10分、JR茅野駅東口に総勢8名(男性6名、女性2名)が集合した。リーダーは山行委員の菊池武昭さん。駅からは夏沢鉱泉の送迎車が桜平まで送ってくれた。ここから鉱泉までは雪道をおよそ1時間、11時前に夏沢鉱泉(2060m)に着いた。

12時、スノーシュー、ワカンを着けて峰ノ松目へ。オーレン小屋まではトレースがあるが、峰ノ松目へは途中で消えて、木にマークされた赤布が目当てだ。所によりスノーシュー、ワカンでも膝くらいのラッセル。リーダーが雪の穴に落ち

込む。しばらくもがかせてみる。そして引き上げた。14時50分、稜線に出た。今日の行動は時間制で、峰ノ松目には登らず下山。16時30分、夏沢鉱泉に戻った。

樹林帯での久々のラッセル、ひと汗、ふた汗、古い(平均年齢71歳)の血潮が騒いだひとときだった。

鉱泉で汗を流し、夕食は鉱泉名物「シン鍋」。生ビールで乾杯し、満足満足、笑顔笑顔。

3月5日(月)、7時40分、鉱泉を出発。1時間ほどでオーレン小屋に着いた。気温が高いので雪でなく雨がパラついてきた。とりあえず夏沢峠(2440m)まで。9時20分に着いた。雨、風、ガス、リーダーの判断でこの先を断念する。明日にしよう。明日は好天の予報だ。10時23分、鉱泉に戻った。気温が高い、雨脚が鉱泉の屋根をたたく。雪山での雨はいただけない。夕食は水炊き、そして生ビール。

3月6日(火)、晴。雨で雪がよく締まった。6時15分、アイゼンを装着して鉱泉を出発。7時30分、オーレン小屋に着いた。トレースを忠実に夏沢峠へ。目に染みるような青空、まさにアタック日和だ。樹林帯を過ぎると風が雪を飛ばして夏道が出ている。アイゼン泣かせだ。左前方に爆裂火口壁。

9時40分、硫黄岳の頂に着いた。広い山頂はこも風が雪を飛ばしていた。南アルプス、中央アルプス、北アルプス、そして八ヶ岳の主峰・赤岳、阿弥陀岳、360度遮るものは何もない。最高のロケーションとはこのことだ。

三角点にタッチし、記念写真を撮って10時に下山を開始した。ガレにアイゼンのツアックがまた泣く。10時40分、夏沢峠に着いた。ここでアイゼンを外す。11時45分、夏沢鉱泉に戻った。

初期の計画では峰ノ松目を登り、赤岩ノ頭を経て硫黄岳を目指す予定であったが、5日の天候が変更を余儀なくさせた。しかし、それはそれで3月の八ヶ岳を十分満足させてくれた山行だった。

(信濃支部・中坪 皓)

## 科学委員会

### フォーラム「登山を楽しくする科学(X)」開催

今回のフォーラムは第10回の節目の会で、「山の写真の撮り方」、「虫刺され」、「ライチョウの保護」、「草津白根火山噴火」の4講演が、去る3月10日(土)に立正大学品川キャンパスで行なわれ、約120名(委員を含む)の参加者が講演に聴き入った。

第1の講演は、科学委員で日本山岳写真協会会員の大村肅氏による「山の写真を楽しむー初級者から脱皮するためにはー」。撮影に必要なものの、良い写真、撮影場所、画面構成、ピントの合わせ方、露出法、フィルター使用法、と詳細な説明があった。良い写真を撮るには多くの工夫・配慮が必要であることを自覚させられた。撮った写真を額に収めるまでの過程について、熱のこもった話であった。最後に登山中の撮影で事故を起こさないためにカメラを首に掛けたまま行動しないように、とのことだった。

第2の講演は、科学委員で医療委員でもある野口いづみ氏による「山での虫刺されと対策」ブヨ、ヒ

ル、マダニ、ハチなど」。①ヌカカとブヨ、②ヤマビル、③マダニ、④ハチに分けてそれぞれに刺された場合の症状と問題点を初めに解説のち、予防・対処について説明。写真とイラストを用いての分かりやすい講演は、実用的で山行中にすぐに役立つことばかりであった。特にハチに刺されたときは、死に至ることもあるので、初期対応の重要性が解説された。山行では長袖を着、黒色の衣類を避けることが大切であることを学習した。

第3は環境省自然保護官の福田真氏の「ライチョウを守り育てよう！ ライチョウが棲む〈天上の楽園〉を永遠に」。神の鳥と言われ人を恐れず、登山者を迎えてくれるライチョウは絶滅に瀕している。その生態、激変の実態、保全保護作業の現場報告で、大変興味深い内容であった。山での保全活動と卵を動物園などで孵化させる活動のそれぞれの実態報告があった。山での保全活動の実際は動画を用いて、ヒナが親鳥について歩き、エサの採り方を学んでいく姿など、大変ほのぼのとした姿は感動的でもあった。保全活動が始まって、減少の程度は下がったようだが、

まだ増加には転じていないようである。カラス、サル、テンによる捕食、シカによるライチョウの餌場の植生の変化をどれだけ防げるのか、などまだまだ多くの課題があることが分かった。

第4は1月23日に突然、水蒸気噴火を起こした草津白根火山噴火について、科学委員で日本火山学会会員の福岡孝昭氏による緊急速報「草津白根火山噴火―突然の噴火に備えた活火山の安全登山心得―」である。今回の噴火の経過、噴火メカニズムの解説で、水蒸気噴火は事前予測が困難な場合があることが説明された。登山者が活火山を（噴火災害に遭わないで）安全に登山するためのチェック項目として、①登る山は火山か非火山か、②活火山か非活火山か、③活火山の場合は常時観測火山か、④活火山の場合、最近の活動状況と噴火史を知ろう、⑤過去の噴火はマグマ噴火か水蒸気噴火か、⑥水蒸気噴火の火山の登山は要注意、とのコメントがあった。活火山の安全登山には、これら山の特徴についての事前学習を心掛けよう。

参加者の多くは従来から中・高年者であったが、今回は3名の高

校生の参加があり、立派な質問もして注目された。今回の4講演に対する参加者の評価はどの講演も好評で、特に火山噴火に関する講演はタイムリーであると評価された。最後に快適な講演会場をご提供いただいた立正大学に感謝申し上げる。

今回のフォーラムの講演要旨に残部があるので、ご希望の方は山岳会事務局においていただくか、[kagaku@jac.or.jp](mailto:kagaku@jac.or.jp)に申し込みください（有料、一部100円＋送料）。

また今回のフォーラムの講演に関連しての保護活動現場見学を、探索山行として9月に行なうことを付記します（本号インフォメーション欄参照）。

（福岡孝昭）

図書委員会  
図書交換会報告  
昨年12月2日の年次晩餐会時に開催された図書交換会では、会員の皆さんにご協力いただき、約470冊の山岳書、50冊あまりの文庫・新書・洋書が集まった。当日は多くの会員に來場いただきましたが、掘り出し物はないかと詳細に見て回る会員の姿があちこちで見られ、山岳書に対する根強い人氣を垣間見ました。入札本も含め、ほぼ全部の書籍をお買い上げいただきました。改めて拠出いただいた方々、購入いただいた皆様にお礼申し上げます。今年度もご期待に添えるような形で運営したいと考えておりますので、ご協力をお願い申し上げます。（荒井正人）

## 支部

だより



全国各地の支部から、それぞれの活動状況を、北から南へとレポートします。

### 東海支部

#### 第16回東海岳人写真展

東海支部では、支部員撮影の山と自然の写真を展示した写真展「第16回東海岳人写真展」を行なっ



写真展会場風景

た。この写真展は2年に1回開催しているが、今回は支部員、支部関係組織の支部友会員、猿投の森つくり会員ら75人の作品87点を展示し、3月20日から25日までの6日間、名古屋の中心地・栄にある「名古屋市民ギャラリー栄」で行なった。開催期間中には2400人の一般市民の方が会場を訪れ、特別出展の皇太子殿下の作品「アイガー北壁」と支部員らの作品を鑑賞した。

展示された写真は、支部の山行や個人、グループで行なった国内の山や自然の写真50点、海外での写真37点で、厳冬の宝剣岳、各地の山の紅葉、猿投山に咲く可憐な花や野生動物、モンゴルの草原、ネパールやヨーロッパ・アルプスの山々などなど、バラエティに富ん

でいる。

支部の写真展実行委員会が、作品の募集から開催の準備までを行ない、さらに出展する作品を撮影する機会を提供するため、毎月1回「写真撮影山行」を企画。通常の山行とは異なり、写真を撮影できるようにゆつたりとした行程で登山を行なったり、撮影ポイントの多い場所を山行先に設定するなどしている。真冬の美ヶ原や千畳敷、剣岳を望む馬場島、御嶽山、かつての大正池を髣髴とさせる自然湖のある開田高原、年末の大正池など、写真山行で撮影された作品も毎回出展されている。

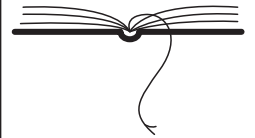
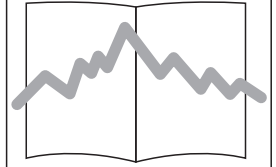
東海支部の活動の中でも一般市民の方が一番多く訪れるイベントであり、登山だけではない支部の「文化活動」の一つとして市民の方に広くアピールし、入会の案内や支部のほかの活動の宣伝の場所としても活用されている。

#### 《開催結果》

- ・日時 3月20日(火)～25日(日)
- ・場所 名古屋市民ギャラリー栄
- ・展示作品 東海支部員ほかによる写真87点
- ・来場者 一般市民2400人

(井上寛之)

## 図書紹介



### 極夜行

角幡唯介著



2018年2月  
文藝春秋 334頁  
四六判 定価1750円+税

シオラパルクからアウンナットまで70km足らずの、夏なら10日の道のり。『極夜行』の旅では27日と3倍近い日数を要し、様々な苦難に直面したのは、旅をあえて「極夜」の下で行なうことを目的としたことにほかならない。苦難との闘いこそが旅の目的なのだろうが、その大半は白熊に由来している。

著者にとつては「極夜という暗がり」下での旅と、その終わりの「太陽を再び目にする瞬間」に意味を求めた旅なのだろう。著者の言葉を借りると「旅の目的は極夜世界を洞察すること……夜は想像を

絶する世界であり、完璧に(現今の社会) システムの外側の領域であり、マニユアルや正解のない、混沌とした世界であり(その探求こそ)、古い地理的探検に代わる新しい探検のテーマ」ということであろうか。こうした著者の考えの受け止め方は人様々であろうが、「極夜」の実体験のない読者にとつては観念論の域を出まい。とはいえ、著者の「極夜下での旅」の描写は、読者の想像を補って余りある。「極夜」の期間は緯度によって異なり、『極夜行』の舞台となった地域では10月下旬から2月中旬まで太陽を見ることはない。しかし、「極夜」は一日中「真つ暗闇」というわけではなく、地平線下を運行する太陽の高度で、真昼の暗さ(天文薄明)は季節で異なり、またこれに月の満ち欠け、高度の変化によって「極夜の暗闇」に変化が生じる。その微妙な「暗さ」の差を著者は巧

みに利用し、困難を克服する様は本紀行の読み所の一つである。

旅行ではGPSを使わないことをテーマとしている。「GPSに位置決定を委ねると、結果的に自分で命を管理するという土台を機械に委ねることになる」と著者は語っている。GPSを持たず、天測で位置を求めるのは南極では最近まで必須技術で、それ自体は難しいものではない。しかし、「暗闇」の下、しかも重量制限された単独行動では一氣に難度が高まる。天測では目標(星、太陽)の高度角を測るが、測定のための基準(水平面)の設定が難しい。今回の旅では特別の六分儀を用意したが、氷帽上で失っている。

本紀行は「極夜」という舞台での様々な「困難」を主題にした冒険行で、その困難さ、状況の複雑さを、高度な生存技術、精神力で克服していく様を克明に描いている。純文学風の冒険談といえは著者から響きを買うのだが、「新たな探検表現」かは読み手の感受性のレベルにもよろうが、「極夜」の織りなす自然が見事に描かれた紀行である。

(渡辺興亜)

### わが山旅の記 ヒマラヤは黒部から

薬師義美著



2017年12月  
茗溪堂 478頁  
四六判 定価4500円+税

本書を紹介する前に、著者の大仕事である『ヒマラヤ文献目録』に触れたい。ヒマラヤ、チベット、中央アジアの登山と探検をテーマにした、内外の文献約9400点を紹介。それに英文概要や索引も加

えた1320ページ(2kg!)の大著で、30年を掛けてデータを集めて作成したのが本書の著者、薬師義美氏である。記念すべき第1回秩父宮記念山岳賞を受賞した。

さて、アジア地域の登山史・探検史の研究者、そして山岳書の研究者として知られる著者だが、本書には若いときのがむしやらの登山活動が語られている。

生まれ育った富山県の東端、泊高校の山岳部員として黒部の山々を歩き回ることから氏の登山はスタートする。書名の『ヒマラヤは黒部から』の所以である。昭和30年代、黒部から後立山への様々なルートに刻み込まれた、高校生たちの足跡がモノクロ写真とともによみがえる。ただただ雪を掻き、沢水に濡れ続けた記録だが、地元の人とがっぷり四つに組んだこの時代が、著者にとっての宝物であることがうかがえる。

その後、地域の山岳会に入っヒマラヤ遠征へ——、のはずが時悪くネパールが登山禁止に。泣く泣くネパール・ヒマラヤを巡る6ヶ月の旅となる。そして、やっと登山が解禁され、念願のヒマラヤへ。グルジャ・ヒマール遠征隊は

初登頂を果たすのだ。

さて著者は、『ヒマラヤ文献目録』を作る過程で、多くの研究者や専門家の知己を得るのだが、その中の一人が深田久弥。そのほかにも諏訪多栄蔵や吉沢一郎、フォスコ・マライーニなど、内外の大御所との交流が本書には次々に登場する。また、主な山岳書(和書)を時代や内容ごとに分類・紹介した「山の本ガイド」や、シュラギントワイト探索のエピソードなど、内容は多岐にわたる。手前みそになるが、『山岳』の巻末に図書委員会に掲載を続けている「山岳図書目録」にも言及してあるのは嬉しい。

なお、最後に登場する3版のネパール・ヒマラヤの地図についての記述が特に興味深い。もともと1932年にインド測量局が作ったものが原図。それを元に国土地理院から発行されたのが「海賊版」(昭和17年)だが、1933年に謎の「山賊版」が一部に販売されたという(「海賊版」「山賊版」は著者の命名)。末尾の「追記」で、その謎が明かされるのだが驚きの内容。ここでは明らかにしないが、「えーっ」という名前が何人も登場する。

(三好まき子)

## 図書受入報告(2018年5月)

| 著者                               | 書名                               | 頁/サイズ     | 発行者                  | 発行人  | 寄贈/購入別 |
|----------------------------------|----------------------------------|-----------|----------------------|------|--------|
| 山森欣一                             | 日本ヒマラヤ登山通史                       | 362p/26cm | 日本ヒマラヤ協会             | 2018 | 発行者寄贈  |
| 上條久枝                             | ウォルター・ウェストンと上條嘉門次                | 315p/20cm | 求龍堂                  | 2018 | 出版社寄贈  |
| 斎藤潤                              | しま山100選：登山で見つける、新しい島の魅力          | 128p/30cm | ネイチュアエンタープライズ        | 2017 | 出版社寄贈  |
| 町田宗鳳                             | 山の霊力：日本人の心の故郷、信仰は山にあった           | 255p/19cm | 山と溪谷社                | 2018 | 出版社寄贈  |
| 池田常道                             | ヒマラヤ生と死の物語：奇跡の生還と遭難の悲劇           | 286p/19cm | 山と溪谷社                | 2018 | 出版社寄贈  |
| 角幡唯介                             | 新・冒険論 (インターナショナル新書 No.023)       | 220p/18cm | 集英社インターナショナル         | 2018 | 出版社寄贈  |
| 市川正 (編)                          | 鉄驪の峰に魅せられて：追悼・恩田善雄               | 148p/21cm | 東京白稜会                | 2018 | 発行者寄贈  |
| 地球の歩き方編集室 (編)                    | ブータン(2018-2019年版)「地球の歩き方」        | 312p/21cm | ダイヤモンド・ビックス          | 2018 | 出版社寄贈  |
| 田北芳博                             | 四季山彩：阿蘇・九重の山の風景美                 | 80p/19cm  | 田北芳博(私家版)            | 2017 | 著者寄贈   |
| 清水昭博                             | スイス南西部アルプスの高峰を巡る                 | 248p/21cm | 本の泉社                 | 2018 | 出版社寄贈  |
| 池田昭二山行記録編集委員会                    | 池田昭二鳥海山山行記録1000：CDブック            | 50p/21cm  | 無明舎出版                | 2018 | 編者寄贈   |
| 稲門山岳会・早大山岳部 (編)                  | 稲門山岳会未踏峰ラジダダ遠征隊2017報告書           | 52p/30cm  | 稲門山岳会                | 2017 | 発行者寄贈  |
| 池内紀 (編)                          | ちいさな桃源郷：山の雑誌アルプ傑作選 (中公文庫)        | 275p/15cm | 中央公論新社               | 2018 | 出版社寄贈  |
| 金野英二・他 (編)                       | パークボランティアのための大雪山自然解説マニュアル(増補改訂版) | 275p/15cm | 大雪山国立公園/パークボランティア連絡会 | 2018 | 発行者寄贈  |
| 笠原功                              | 森に学ぶ：那須野営場の8年間                   | 51p/26cm  | 文治堂書店                | 2009 | 著者寄贈   |
| 大山阿夫利神社 (編)                      | 相模大山街道：大山阿夫利神社                   | 502p/23cm | 大山阿夫利神社              | 1987 | 亀井敬氏寄贈 |
| John Porter, Haroojae Club (tr.) | One Day as a Tiger (韓国語版)        | 608p/24cm | Haroojae Club        | 2017 | 邊起兒氏寄贈 |
| Haroojae Club                    | 山冊旅行(韓国語版)                       | 239p/20cm | Haroojae Club        | 2018 | 邊起兒氏寄贈 |



## 平成30年度第2回(5月度)理事会 議事録

日時 平成30年5月15日(火)19時05分～20時35分

場所 集会室

【出席者】小林会長、重廣・野澤・

中山各副会長、神長・永田・

古川・谷内各常務理事、安

井・清登・齋藤・星・近藤・

波多野各理事、平井・石川

各監事(所用のため齋藤理

事は業務執行報告6まで

欠席)

【オブザーバー】節田会報編集人

### 【審議事項】

1・平成30年度通常総会の開催について

平成30年度通常総会の開催あたり、各事項について以下のとおり審議した。

日時 平成30年6月23日(土) 午後2時より

## 報 告

会場 主婦会館プラザエフ

〒102-00085 東京都千

代田区六番町15番 田03-3

265-8111(賛成13名、反

対なしで承認)

### 決議事項

第1号議案 平成29年度事業

報告(案)承認の件(賛成13名

反対なしで承認)

第2号議案 平成29年度決算

報告(案)承認の件(賛成13名

反対なしで承認)

### 報告事項

1・平成30年度事業計画および

予算の件

2・その他(賛成13名、反対な

しで承認)

2・平成29年度事業報告・決算報

告(案)について

平成29年度事業報告・決算報告

(案)について審議した。(賛成13

名、反対なしで承認)

3・平成30年度支部特別事業補助

### 金について

支部事業委員会において審査された平成30年度支部特別事業補助金について審議し、9支部に対し総額77万円の助成を行なうこととした。(賛成13名、反対なしで承認)

### 4・支部長の交代について

以下6支部の支部長の交代について審議した。

秋田支部 新支部長 鈴木裕子

(No.11280)(事由)今野昌雄

支部長からの交代による就任

東京多摩支部 新支部長 野口い

づみ(No.12105)(事由)竹中

彰支部長からの交代による就任

富山支部 新支部長 鍛冶哲郎

(No.11787)(事由)山田信明

支部長からの交代による就任

石川支部 新支部長 樽矢導章

(No.8082)(事由)中川博人

支部長からの交代による就任

信濃支部 新支部長 米倉逸生

(No.9788)(事由)塚原賢勝支

部長からの交代による就任

広島支部 新支部長 斎陽(No.1

3436)(事由)八幡浩支部長か

らの交代による就任(賛成13名

反対なしで承認)

5・「ナンダ・コット征服」フィル

### ムの寄贈について

「ナンダ・コット征服」フィルム  
の富山県「立山博物館」への寄贈について審議した。(賛成13名、反対なしで承認)

### 【報告事項】

1・入会希望者14名、準会員入会希望者27名について入会承認を行なったとの報告があった。(小林)

2・募金開始の事前申請1件に対する応諾、寄付金12件の受領について報告があった。(古川)

3・広島支部の状況報告があった。(重廣)

4・記念事業委員会の活動報告があった。(重廣)

5・登山計画書の提出状況について報告があった。(中山)

6・2018年度日中韓3国学生交流登山の開催について報告があった。(中山)

7・山岳研究所運営委員会からの活動報告があった。(安井)

8・第6回小島鳥水祭の開催状況について報告があった。(野澤)

9・新永年会員への挨拶状発送について報告があった。(永田)

10・賠償責任保険の更新について報告があった。(永田)

11・「山」5月号の発行について報告があった。(神長・節田)

### 【連絡事項】

1・第72回ウエストン祭 6月2日(土)～3日(日) 長野県松本市

2・第61回針ノ木岳慎太郎祭 6月3日(日) 長野県大町市

3・平成30年度「静岡県富士山ガイダンスin大阪」 6月8日(金)13時30分～15時30分 大阪府大阪市

梅田センタービル

4・第57回全日本登山大会「京都大会」 6月16日(土)～17日(日) 京都府亀岡市・京都市

都府亀岡市・京都市

5・平成30年度安全登山サテライトセミナー(東京) 7月21日(土)～22日(日) 東京都渋谷区 国立オリンピック記念青少年総合センター

6・安全登山指導者研修会 9月15日(土)～17日(月・祝) 埼玉県小川町 11月17日(土)～19日(月) 沖縄県名護市

【今後の予定】

1・常務理事会・理事会

・平成30年度6月度常務理事会 6月6日(水) 18時30分

・平成30年度6月度理事会 6月13日(水) 19時00分

2・平成30年度通常総会 平成30年6月23日(土) 14時00分 主婦会館プラザエフ

## ル・ム・目・誌 5月

1日 科学委員会 スケッチクラブ

2日 財務委員会

7日 総務委員会 図書委員会 スケッチクラブ

8日 山岳研究所運営委員会 フ

オトクラブ 二火会 パックカントリークラブ JAC グローバルクラブ

9日 常務理事会 休山会 山想倶楽部

10日 評議員懇談会 支部事業委員会 山岳地理クラブ 九五会

11日 財務委員会 YOUTH CLUB

14日 自然保護委員会 スキークラブ

15日 理事会 山行委員会

16日 YOUTH CLUB 三水会 つくも会

17日 科学委員会 みちのり山の会 マウンテンカルチャークラブ

18日 YOUTH CLUB 山の自然学研究会

19日 緑爽会

21日 総務委員会 資料映像委員会 会報編集委員会 スケッチクラブ

22日 デジタルメディア委員会 平日クラブ

23日 家族登山普及委員会 麗山会 フォトクラブ 00会

24日 学生部 山遊会

25日 「山の日」事業委員会 YOUTH CLUB 青年部 公益法人運営委員会 遭難

対策委員会 二火会 スキークラブ 5月来室者 500名

### 会員異動

#### 物故

森田 暁 (4867) 18・3・10

松島利夫 (6110) 18・4・21

大橋栄蔵 (8183) 18・4・16

諏訪 弘 (11009) 17・7・15

#### 退会

大越陸助 (8786)

宮崎和夫 (9558)

今福克保 (9615)

|       |         |       |
|-------|---------|-------|
| 伊佐泰治  | (9814)  |       |
| 高橋 脩  | (10500) | 京都・滋賀 |
| 山口光子  | (10783) |       |
| 吉武玲子  | (10850) |       |
| 長谷川 清 | (11023) | 福井    |
| 北野喜行  | (11731) | 富山    |
| 吉田絹子  | (12179) | 京都・滋賀 |
| 菅谷 實  | (12741) | 東海    |
| 反橋一夫  | (13100) | 北海道   |
| 高山 侃  | (13427) | 宮崎    |
| 平林丈彦  | (13480) |       |
| 渡邊龍男  | (14052) | 山梨    |
| 山元貞彦  | (14250) | 東海    |
| 山田 明  | (14506) | 茨城    |
| 小川速雄  | (14918) | 広島    |

|       |         |      |
|-------|---------|------|
| 寺崎 彰  | (15052) | 熊本   |
| 藤川千恵美 | (15086) | 広島   |
| 不破祐治  | (15124) | 東海   |
| 宮沢輝夫  | (15359) | 東京多摩 |
| 大竹誼長  | (15398) | 群馬   |
| 鈴木芳江  | (15529) | 東海   |
| 高橋恵子  | (15576) | 東京多摩 |
| 北原惣年  | (15648) | 宮城   |
| 佐藤竜也  | (15802) | 北海道  |
| 吉岡敏行  | (15884) | 神奈川  |
| 松崎祥平  | (15985) | 東海   |
| 渡辺キミエ | (16040) | 神奈川  |
| 馬場正弥  | (16157) |      |
| 馬場雅美  | (16158) |      |

## ◆北アルプス・裏剣を巡る

## 山行委員会

北アルプス全山縦走シリーズ第7回は、池ノ平小屋に泊まり、池ノ平山から剣岳・ハツ峰の展望を満喫します。帰路は阿曽原温泉經由、樺平に下山します。

日程 8月27日(月)前泊～8月31日

## インフォメーション



(金)十予備日1日

集合 28日午前9時、室堂ターミナル前

行程 室堂―剣沢―剣沢小屋(泊)

―仙人峠―池ノ平小屋(池ノ平山往復・泊)―仙人温泉―阿曽原温泉小屋(泊)―

樺平(解散)

日程 8月31日

解散 8月31日13時ごろ  
参加費 3万5000円(27日前泊分は含まず)

募集人数 10名

申込み 8月10日までに、清登緑

郎宛

TEL 090-9325-8258

sanako@jac.or.jp

詳細案内はホームページをご覧ください。

## ◆ライチョウを訪ねて乗鞍岳へ

探索山行のお誘い

科学委員会

人を恐れず、疲れた登山者を癒してくれる、神の鳥ライチョウが絶滅の危機に瀕しています。今回の探索山行は乗鞍岳で、ライチョウ保全活動の現場を見学します。

日程 9月8日(土) 7時、新宿駅

西口の工学院大学前集合、バスで乗鞍岳山頂(畳平)へ。

約4時間で山頂往復後、バスで乗鞍高原へ。入浴、宿

泊。夜は中村浩志信州大学

名誉教授によるライチョウ

保護の講義

9月9日(日) 8時30分発の

バスで畳平へ。ライチョウ

保護現場の観察、昼食。パ

スで宿舍へ戻り、入浴後新

宿駅西口へ。19時ごろ解散。  
バス代、宿泊などで約2万円を予定

募集 40名 先着順で受付け

申込み 氏名(会員番号)、性別、

年齢、住所、電話番号(携帯

が望ましい)を記載。

☐kagaku@jac.or.jp

担当 稲垣哲郎宛。ハガキ

の場合は稲垣哲郎 〒22

1-0801 横浜市神奈

川区神大寺3-5-10-10

5へ。

問合せ TEL 090-7227-0

512 稲垣へ。

## ◆第3回家族登山教室「上高地で1泊体験」

家族登山普及委員会

当会では家族で登る山の楽しさを知ってもらうための登山教室を開催しています。第3回は上高地で1泊する体験です。

開催 7月28日(土)～29日(日)

集合 13時15分、上高地アルピコバス停(昼食は車中で済ませてください)

行程

28日 13時15分上高地バス停—山岳研究所—明神池—16時山岳研究所帰着(入

浴・夕食・星を見る会)

29日 6時起床・7時朝食・8時出発—小梨平で

自然観察会—大正池散策—

山岳研究所帰着、12時解散

小・中学生とその保護者

参加費 大人2000円、

子ども1000円(保険料

など)

宿泊費 大人4000円、

中学生1000円、小学生

以下無料

ごみ処理費 大人も子ども

も1人1000円

食費の目安(夕食・朝食の

2食) 大人1000円、子

ども5000円(実費を精算

します)。そのほか、交通費

や見学科などの実費は個人

でお支払いください。

持ち物 行動食、ヘッドランプ、

雨具、軍手、帽子、保険証、

虫除けの薬などを持参。

申込み/問合せ 飯田邦幸(家族

登山普及委員会) 自宅

TEL・FAX 03-3268-9654

携帯 090-11990-3508

Eメール [hida3268@gmail.com](mailto:hida3268@gmail.com)

締切り 6月30日(土)先着順(定員

になり次第締切ります)

\*参加者全員に「やまねんバッグ」

「親子登山ハンドブック」進呈

## 【山の日マガジン2018】発行

「山の日」事業委員会

「山の日」啓発活動のツールとして、標記の冊子が一般財団法人全国山の日協議会から発行された。B5判サイズで48ページ。無料配布のフリーペーパー。企画・編集には、日本山岳会が協力した。JACの全会員には6月号の会報「山」に同封してお届け

する。

祝日制定の趣旨を活字と写真

で広く伝えたいという趣旨で発

行が企画された。冊子のキャッ

チフレーズは「山を知る。日本を

知る」。「木の山」「海の山」「火

の山」などユニークな視点から

選んだ「日本の10座」は、事業

委員会の永田弘太郎会員が執筆

した。

各地のイベントなどで一般の

方々にも配布を予定している。



訂正  
「会報」4月号(875号)、会員異動・物故欄に掲載の、室次雄様(5357)の「ご命日に誤りがございました。正しくは「18・2・8」です。訂正してお詫び申し上げます。

事務局

## ◆編集後記◆

●5月26日、今年もふるさと佐渡のドンデン山から金北山へ歩いたのですが、縦走路前方にヘリコプターがホバリングしていました。前日から行方不明になっていた登山者を探していたのですが、幸い昼前には救助できたようです。初夏の佐渡の山で遭難とは……本当にびっくりしました。

●前日、4人で金北山からドンデン山に向かったそうで、女性3人は無事山荘に着いたのですが、ベテランの男性が到着せず、遭難騒ぎに。金北山直下のアヤマ池あたりに少し残雪があったので、多分、ここで道を見失い、北側の沢に迷い込んだものと思います。島の山だから、たかだか1000mの山だからといって、決してナメてはいけませんよ。(節田重節)

日本山岳会会報 山 877号

2018年(平成30年)6月20日発行  
発行所 公益社団法人日本山岳会  
〒102-0081  
東京都千代田区四番町5-4  
サンビューハイツ四番町  
TEL 東京(03)3261-4433  
FAX 東京(03)3261-4441  
発行者 日本山岳会会長 小林政志  
編集人 節田重節  
Eメール: [jac-kaiho@jac.or.jp](mailto:jac-kaiho@jac.or.jp)  
印刷 株式会社 双陽社